

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 鳥居 ゆ か

論 文 題 目

Causes of vertical transmission of hepatitis B virus under
the at-risk prevention strategy in Japan

(日本でのリスクのある対象へのワクチン接種戦略において
B型肝炎ウイルスが垂直感染した原因)

論文審査担当者

主 査 委 員

名古屋大学教授

八木 哲也



名古屋大学教授

中羽 孝男



名古屋大学教授

安藤 雄一



名古屋大学教授

指導教授 小島 勢二



論文審査の結果の要旨

日本でB型肝炎母子感染対策事業が1985年から開始され四半世紀が経過し、B型肝炎ウイルス（以下、HBV）キャリアの数は当初にくらべ50分の1まで減少した。しかしながら現在でも未だ少数のHBVキャリアが発生している。一方、近年成人の間で急性B型肝炎の数が増加しており、特にサブゲノタイプAeによる急性肝炎が増加している。サブゲノタイプAeは従来日本の主流であったゲノタイプと異なり、成人以降の感染でも10%が急性肝炎から慢性肝炎に移行するため、今後成人の慢性B型肝炎の増加が懸念される。このような背景から現行のHBVに対する感染予防対策を見直す必要がある。

本研究ではB型肝炎母子感染対策事業開始以降に出生し母子感染からHBVキャリアとなった17症例を解析し、母子感染が成立した原因について考察を行った。

本研究を要約すると以下の通りである。

1. 当院小児科に通院中の母子感染から成立したHBVキャリアは17例で、うち12例は出生時または予防プロトコルを遂行中にHBs抗原陽性となっていた。これらは胎内感染/予防無効例と考えられた。胎内感染/予防無効の危険因子として母体の高ウイルス量やウイルスの変異などが挙げられる。残り5例のうち保護者や医療者の過誤によりワクチンやグロブリンを接種できなかった症例が3例、母が妊娠前期のスクリーニング検査でHBs抗原が陰性だったために感染対策の対象外であった症例が2例であった。
2. HBVの遺伝子解析を行った10例中、1例のみサブゲノタイプAeで残りの9症例はサブゲノタイプCeであった。さらに、サブゲノタイプAeの症例は母の周産期感染から母子感染した症例であった。
3. 母の周産期のHBV感染から母子感染を起こした症例は妊娠前期のスクリーニング検査ではHBs抗原は陰性で、母子感染対策の対象とならず、出生した児は感染予防策を受けられなかった。現行の予防法ではこのような症例を予防対象として特定することが難しいため、周産期のHBV感染予防の必要性を周知していくとともに全ての子どもにワクチンを接種するユニバーサルワクチンも今後検討に入れる必要があると考えられる。

本研究は、今後のHBV感染予防対策に、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	鳥居 ゆか
試験担当者	主査	八木哲也	中川 毅	安藤 雄一
	指導教授	小島 啓二		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子感染によるHBVキャリアのキャリア化した原因、その危険因子について 2. HBVキャリアにおけるHBVサブゲノタイプの分布について 3. 今後のHBV母子感染対策について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、小児科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				